

3. 計画案

中心市街地は3つのエリアに分かれており、駅前エリアでは（行政、医療、交通、福祉機能）、立町・中央エリアでは（生活、文化交流、商業機能）、川沿いエリアでは（観光、商業、交流機能）と各々の機能を持つ。それぞれのエリアが機能を果たし、かつ本計画の目的が達成できるような空間を検討する。

3-1. 計画コンセプト

本計画のコンセプトを“纏い・紡ぐ街”とする。大震災以降のハード面の復興の追い風をまったり、経験や各々が抱える想い、幸せ、その土地での思い出など様々な想いをまとめた人々が、そこで生まれる多様な活動をつなぎ合わせた街にしていくことで、街に賑わいや活気を取り戻し、地元住民が“また住みたい”、“今後もこの街に住み続けたい”と思いを暮らせるような街にしたい。

同じ空間に複数の主体が存在し、複数の活動が重なる場やプログラムを組み込むことで、「糸」が重なり、交わり、織りなすような空間を創出する。そこから地域の賑わい活性化につながることを目指す。

3-2. 計画詳細

1) 駅前エリア

駅前エリアでは、にぎわい広場を有効的に使い、空間を豊かにする計画をする。自動車社会である中心市街地に、電車での来街者の増加を図る。また、通勤者や通学者、来街者など、複数の主体が利用できるような滞留空間を設置する。他にも、周辺の建物利用者も時間を過ごせるような駅前空間にする。親子同士のコミュニティや高齢者同士の交流が生まれ、地元住民同士のつながりができると考える。

2) 立町・中央エリア

石巻の文化を感じ、人々が滞留できる場をつくり、賑わいを生む。他の通りの老舗店舗や隣町、漁村地域からの出店やキッチンカーを設置することに加え、新たにカフェなども取り入れ、若い世代にもターゲットを向ける（図2）。設置するベンチやテーブルに震災廃物を利用したり、設置するモノの高さを実際の津波の高さに合わせ、被災地ならではの要素を埋め込み、震災を風化させず、またこの場所を訪れた人にとって、東日本大震災の学びとして認識できるようにする。この空間にはスクリーンを設け中心市街地の地域資源でもあるマンガアニメを映し出すことで、石巻の漫画文化を感じることができるようにし、川沿いエリアにある石ノ森漫画館方面への移動を誘致する。加えて、実際の漫画本や、震災記録物等も合わせて置くことで、石巻の文化に触れたり、同時に震災の学びも得られる。

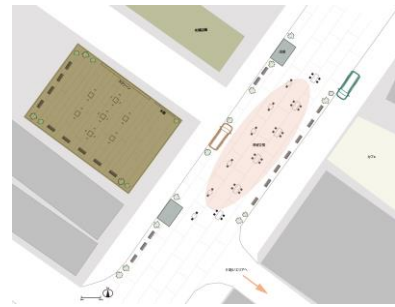


図2 立町・中央エリア平面図

3) 川沿いエリア

川沿いエリアでは石巻の“食”、“自然”、“歴史”を堪能し、多様な主体や活動が交わるような賑わいの場を生む。“食”では、漁村地域の食材やカフェなどをキッチンカーなどを利用して出店し、石巻ならではの食を楽しむことができ、漁村地域産業の創出も図れる。“自然”では、釣りやバーベキューなどのアクティビティを通して石巻の自然を楽しむようにする。“歴史”では、中瀬への移動を船にすることで石巻港の自然と歴史を感じ中瀬へのアクセス向上につなげる（図3、図4）。中瀬には地元住民や学生などが利用できるような空間を整備し、芝生の広場やベンチなど設け、来街者でも中瀬に来た人が自由にくつろぐことのできる場所にする。



図3 川沿いエリア平面図



図4 川沿いエリアイメージ図

参考文献

- 1) 石巻市ホームページ、
<https://www.city.ishinomaki.lg.jp/cont/10106000/8284/20131213153754.html>、最終閲覧日:2021年1月23日
- 2) 東北大学ホームページ、
https://www.tohoku.ac.jp/japanese/newimg/pressimg/tohokuunivpress20210312_01web_stress.pdf、最終閲覧日:2021年1月23日